令和6年度 外国語科 授業改善推進プラン

大田区立出雲小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・「音声で十分に慣れ親しんだ、英語で書かれた語句の意味を理解している」という項目で、すべての問題の正答率が目標値を大幅に上回っている。ネイティブの発音を聞く機会を多く設定し、意味を推測する学習を行った成果と言える。

(2) 課題

- ・聞く問題は全体的に目標値を上回っているのに対して英作文の問題の正答率が低かった。簡単な語句や基本的な表現を用いて文を書くことについては、各レッスン終了後、文を書く指導を行っているので、これを続けたい。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	実施なし	/	/
第5学年	実施なし	実施なし (第4学年時)	/
第6学年	△昨年度の6年生と比べ、高くなった。	実施なし (第5学年時)	実施なし (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・フォニックス学習により、アルファベットのもつ音を学習している。3文字程度の短母音を含む簡単な単語を読む練習を重ねている。	・大文字、小文字の判別ができるようになり、4線に正しく小文字を書く練習をしたり、簡単な英文を書いたり、発表したりしている。	・物語、動作、チャンツ、歌などを活用し、意欲的に発話しようとしている。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・日常会話の理解や会話全体の理解は、多くの問題で正答率が高い。 ・授業でListeningに丁寧に取り組む、文章を見たり、読んだりしている成果と言える。	・「例文を参考にしながら、第三者について、簡単な語句や基本的な表現を用いて書いている」という項目が十分でなかった。例文を基に言いたいことを言う活動をさらに取り入れたい。	・5学年、6学年ともに主体的に学習に取り組んでいるが、発話の声の大きさなど、個人差や学年差がある。失敗を恐れず、発話したり、発表したりする雰囲気を作りたい。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットの歌や Hello song, Sunday・Monday・Tuesday Song などを通して単語や表現を覚えるよう指導していく。また、動物や果物など、題材を設定し、その単語を覚えたり、簡単な会話ができたりするよう指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・覚えた単語を使って、自分の好きなものや持っているものを英語で表現したり、欲しいものを表現したりする活動を取り入れていく。 ・一斉に繰り返すだけでなく個人個人で言いたいことを英語で発表する場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌、チャンツ、動作で英語を話す場を多く設定し、主体的に学習に取り組めるようにする。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・大文字、小文字の判別がつき、その文字を読んだり、4 線に書いたりする活動を行う。 ・単元ごとに、ワークシートを作成し、チャンツで英文を体得したり、語彙を広げたりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに、自分の思いを作文にしたり、発表したりできるように指導していく。 ・ストーリーテリングを通して、チャンツや動作で1つの話を表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに作成した画用紙では、定期的な発表会をして、自分の思いを伝える活動を通して、児童の個性や頑張りを称賛していく。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを書くことや英文を書くことの正答率が目標値より低くなっている。語彙を増やすとともに、正しい文法を教えて、実際に英文を作って書く力を育成していく。単元ごとにテストを実施し、習った表現を定着させるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書のリスニングや ALT が話したことを聞くことには慣れているが、英文を読んだり、書いたりするのは、個人差がある。自己紹介や他者紹介のスピーチなどを通して、自分のことを表現する力を育成していく。定期的な発表を通して、自分の意見を伝える場を今後も設定していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語に対して苦手意識をもっていて、授業に集中できない児童たちもいる。小さな成長をほめながら、少しずつできたという自信をもたせるように指導していく。 ・塾に通っており、多少の英語を知っている児童の中にも、授業への取り組み方が十分でない児童がいる。様々な指導方法でアプローチしていく。